

海外 神社

とは？

【公開展示】

『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの』

2014年3月25日(火)~30日(日)

10:30~18:30 *最終日は15時まで

サブウェイギャラリーM

【公開研究会】

『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの -台湾と韓国の事例を中心に-』

2014年3月29日(土) 13:00~17:00

神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター<KUポートスクエア>

公開展示・公開研究会

『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの』について

戦前期に大日本帝国が海外において植民地化した旧台湾・旧朝鮮・旧樺太・旧南洋群島や旧満州国を中心とした中国などの侵略地に日本人は神社を創設した。それらが海外神社であり、その数は1640箇所にもものぼるとされている。敗戦とともにほとんどの神社は現地人や日本人自身の手によって破却され、その機能はすべての神社で停止した。

神奈川大学非文字資料研究センターの共同研究班「海外神社跡地から見た景観の持続と変容」では3年間(2011年度～2013年度)の共同研究終了の区切りとして、『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの』との共通の表題で、公開展示・公開研究会を実施することにした。

公開展示は、史料展示として古写真・絵葉書・絵画資料・図面などをもとに各地の海外神社の神社時代の実像に迫るとともに、跡地の現状写真などを対比的に展示することによって戦後の神社跡地の景観変容についても考えたい。

また、跡地の現況については研究協力者でフリーランスのカメラマンである稲宮康人氏の独自の写真コーナーを設け、カメラマンの眼をとおしてみた跡地の景観についての写真展を併せて行う。

公開研究会は、『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの -台湾と韓国の事例を中心に-』とサブタイトルを追加し台湾・韓国の海外神社の研究者にお集まりいただいて、両国における海外神社の様相や戦後の神社跡地の変容過程について報告をいただく。さらに、地域によって当然異なるであろう跡地の処分過程や変容の社会的背景などについても議論したい。

見えるようで見えない海外神社の姿が、仄見えてくる公開展示・公開研究会になればと考えている。



(津田良樹・非文字資料研究センター研究員)

【公開研究会】

『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの』
—台湾と韓国の事例を中心に—

日時：2014年3月29日(土) 13:00～17:00

会場：神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター
＜KUポートスクエア＞ 参加自由／事前申し込み不要

アクセス：みなとみらい線 みなとみらい駅
改札口より徒歩2分 クイーンズタワーA 14階

【公開展示】

『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの』

期間：2014年3月25日(火)～3月30日(日)
10:30～18:30 *最終日は15時まで

会場：サブウェイギャラリーM

アクセス：みなとみらい線 みなとみらい駅 改札口より徒歩1分



【報告】

『台湾の神社とその跡地について』
黃士娟 (國立臺北藝術大學 文化資源學院 建築與文化資產研究所 副教授)

『台湾神宮の消長と地下神殿』
津田良樹 (非文字資料研究センター研究員・神奈川大学建築学部 助教)

『解放後の朝鮮神宮の解体とその跡地利用について』
諸葛衍 (神奈川大学大学院歴史民俗資料学専攻 修士課程)

『戦後台湾における神社建築の処理政策と
金瓜石神社の再利用計画について』
林承緯 (國立臺北藝術大學 文化資源學院 建築與文化資產研究所 副教授)

【問い合わせ先】

〒221-8686
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学日本常民文化研究所
非文字資料研究センター事務室
Tel: 045-481-5661(内線3532) Fax: 045-491-0659
<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>
<http://www.kanagawa-u.ac.jp/>